



## 「授業研究会をどのように組織するか」 第1回研究主任研修(教諭)

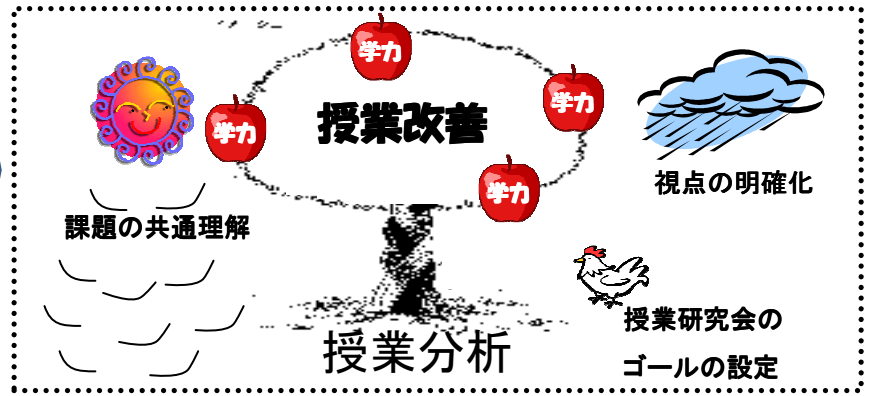
全体講師: 横浜市立岸谷小学校長 齋藤一弥 先生

平成24年5月22日(火)実施

### 本研修会の趣旨

### 授業研究会を充実させるための研究主任の役割とは…!?

学力という実がなるためには、まず日々の授業を改善していくことが肝要である。授業改善の土台(=土壌)となるのは、授業分析。肥沃な土壌には、水、日光、耕し手などが必要であるように、よりよい授業分析のためには、「視点の明確化」「課題の共通理解」「授業研究会のゴール設定」などが必要である。



### 研修の内容

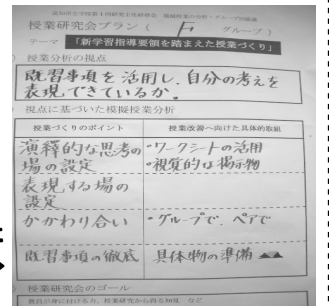
#### 1 齋藤先生による模擬授業の参観

- ・小学校算数 5年 単元: 「内角の和」
- ・各々が授業分析の視点(言語活動, 知識・技能の習得など)を明確にして参観

#### 2 模擬授業の分析・グループ別協議・発表・共有

- ・校内授業研究会のプランニング

各グループで考えた  
授業研究会プラン→



#### 3 講話「新学習指導要領を踏まえた授業づくり」へ研究主任に求められるもの

「19.9%」この数字は、中学校数学B問題にある一問題の正答率である。この結果から、これからの子どもに期待される学力とは、「課題解決力・表現力」といえる。もう「19.9%」という歴史を繰り返さないためにも、以下のことが我々教師には求められている。

- 学習指導要領を読み込む。「習得・活用」という基本を確認する。
- 教科書で教えること。教科書をなぞることから、教科書を活用し、系統性を意識した展開を描くことへ。
- 教材を通して身につける力、問い(思考対象)を明確にした授業デザインを行う。
- 「いい授業」のイメージの共有化を図る。
- 学びあう同僚性の育成, 組織の活性化。

#### 4 最後に…



研究主任の醍醐味とは!?



今まで考えたことも  
なかった, うーん…

齋藤先生曰く「研究主任の醍醐味は**学びをつくること**である」

#### <受講者の感想>

研究主任の役割として、校内研修の活性化について改めて考えることができた。授業分析の視点を明確にして行っていくことが授業改善につながることを確認できた。



研究主任の醍醐味は、教育の喜びをたくさんの同僚と分かち合えることではないかと思う。新指導要領の理念が授業という具体的な形になっていくように、学校全体で頑張りたい。

# 「授業力向上カリキュラム・マネジメント研修」

対象：高知市立小中学校15・20年次教員  
平成24年5月29日(火)実施

中村学園大学  
田村 知子 先生

授業力向上のためのカリキュラムマネジメントについて

## カリキュラム

「子どもが実際に学んだこと」  
まで含む研究用  
||  
目標を具現化するための具体的な手段  
(教育の内容・方法)  
☆「何のために何をするのか」  
それを常に明確にする必要がある。

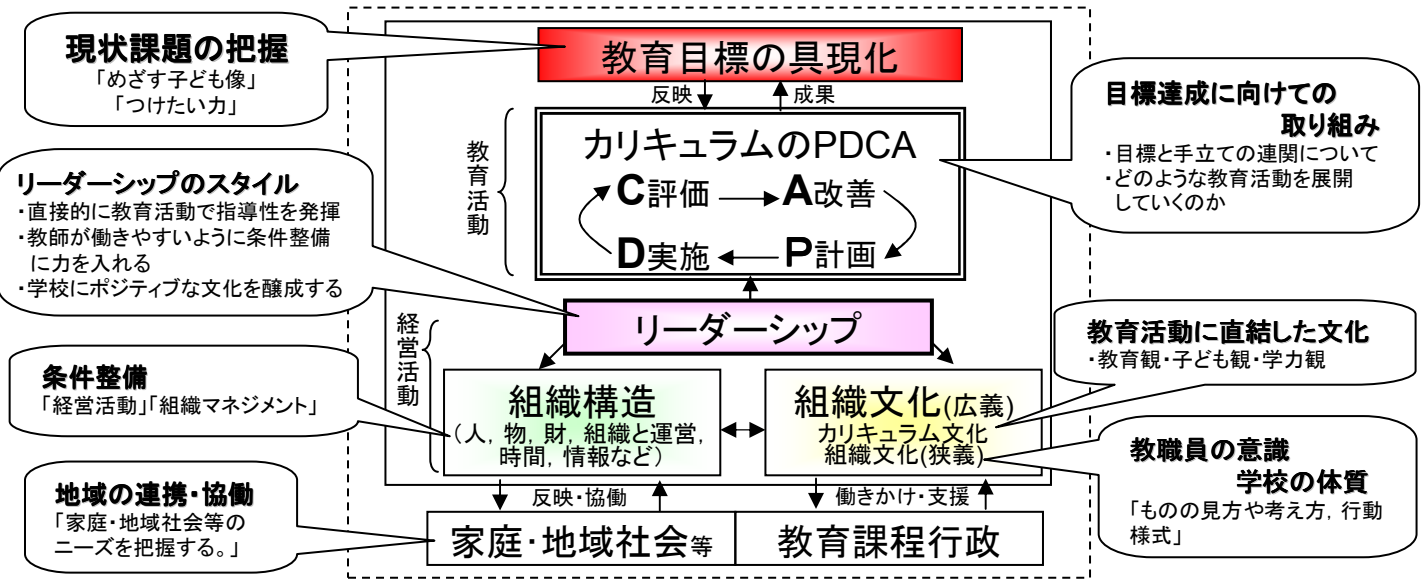
## マネジメント

目標を設定し、適切な手段を選択・実施して、その目標を達成していく「プロセス」を意味している。  
・学校組織がマネジメントを行う際の目標とは…  
⇒「子どもの成長」  
・目標を達成するための主たる手段とは…  
⇒「授業、教育活動全般」



## カリキュラムマネジメント

各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営み



- ①勤務校の子どもの課題は何ですか。
  - ②課題を解決するために、どういう教育活動をしていますか。
  - ③その教育活動は順調に推進され、成果をあげていますか。
- ※推進を阻むもの(マネジメントの課題)は何ですか。



## カリキュラムマネジメントの基軸

### 『つながり』

○カリキュラム面の連関性      ○マネジメント面の協働性  
**カリキュラムとマネジメントをつなぐ**

- ・目標とカリキュラム    目標と評価
- ・教科と教科、総合、道徳等
- ・計画→実施(授業)→評価→改善
- 計画→実施→…
- ・教職員同士(教科間、学年間…)
- ・学校と保護者    学校と地域
- ・この学校と他の学校
- (小中高校大学の接続など)

## <受講者の感想>

- ・「子どもに表れた課題を明らかにすることから、カリキュラムマネジメントは始まる」という教えに、いざ、自分の学校の子どもの課題を思い浮かべてみましたが、かなり曖昧であることに気づき、反省した。
- ・もっと「このような子どもにしたい。このような学校にしたい」という思いを共有し、カリキュラムマネジメントでより効果的に成果を出し、生徒の確かな成長を保護者や地域と一緒に喜び合えるようになりたいと思う。
- ・私たちが作っている教育計画がただの紙キュラムにならないよう、組織を動かし、変えていくことが必要であり、それは常に子どもの課題を解決していくものにつながっていることが大切であると学んだ。